



市民病院

ハナちゃん通信

問合せ
市民病院管理課
☎(48)5050

全国糖尿病週間にあわせて イベントを開催します

11月14日は「世界糖尿病デー」です。糖尿病が原因で亡くなる人を少しでも減らそうと、病気の予防や治療継続を呼びかけるキャンペーンが世界中で行われます。キャンペーンでは、一致団結して糖尿病と闘おうという意味をこめ、青い円（ブルーサークル）をシンボルマークとして使い、シンボルカラーの青色で歴史的な建造物をライトアップする取り組みもされています。例年、名古屋城や大阪城などがライトアップされています。

日本では、11月14日を含む1週間を「全国糖尿病週間」とし、各地で講演会や健康相談などが行われます。それに合わせて市民病院でも11月13日(火)にイベントを開催します。

毎年恒例の血糖測定はじめ、ラジオ体操など体を動かすコーナー、動脈硬化の程度がわかる検査や、今年度は内臓脂肪量を測定できる検査も企画しています。また、糖尿病関連グッズがもらえるスタンプラリー、医師によるミニ講演会（10時～10時30分）も行います。

参加は無料で予約も必要ありませんので、皆さんお誘い合わせのうえ、気軽に参加してください。

全国糖尿病週間関連行事

とき 11月13日(火) 9時～13時

ところ 市民病院



碧南の歴史へのいざない

問合せ
文化財課内市史資料
調査室 ☎(41)4566

No.53 碧海郡から碧南市へ

はるか昔、幡豆郡の北に位置する地域は碧海郡(あみごおり)と呼ばれました。碧海郡は奥深くまで、大小の青い入り江がいくつもありました。この美しい風景から碧海郡と呼ばれたとする説があります。江戸時代になると、ほとんど碧海郡(へきかいぐん)と呼ばれるようになったようです。郡内には100を超える村々がありましたが明治期の統廃合を経て終戦時の郡内は7町、9村となりました。このなかから戦後の昭和23年、まず初めに大浜町、新川町、棚尾町と旭村の3町1村が、碧南市としてまとめ、碧海郡から分離しました。つづいて25年に刈谷市、27年に安城市が成立し、碧海郡から分離しました。

昭和30年3月12日、油ヶ淵の北に位置する明治村の村議会では、村の分村合併が審議され、村内の各地区の分村合併は住民の意思に従うことが決議されました。3月14日の住民投票の結果、西端地区は碧南市と合併することになり、昭和30年4月1日より現在の碧南市市域となりました。

昭和30年代に碧海郡内の矢作町と六ツ美町は岡崎市へ、上郷町と高岡町は豊田市へ入っています。その後、昭和45年に知立町、高浜町が市制施行となり、碧海郡は消滅しました。旧碧海郡から分離した、ほとんどの市の財政力指数は、全国の上位に位置していることに驚かされます。

『愛知県の地名』によれば碧海郡の時代から碧南という呼び名はあったとされ、明治期の西方寺、清沢満之の書簡にも「碧南」の名が見られたといわれています。古代律令制で使われた碧海郡での一文字「碧」が市の名に残りました。市名を決めた先人たちの英知を感じます。



△昭和26年 竣工当時の市役所庁舎